

社会

5年生 | 「私たちの暮らしと情報」

発信活動に広げる社会科授業

～5年生での実践例から～

1. はじめに

2020年度に全面実施される新学習指導要領において、社会科では「考えたことを表現する力」が重視されている。今後は問題解決的な学習プロセスの中で、様々な情報を関連づけながら再構成した自分の考えを発信していく授業づくりが求められるだろう。

2. 実践例

5年生の「私たちの暮らしと情報」では、メディアと情報ネットワークについて学習する。前者においては新聞やテレビ、後者においては医療・福祉や防災のネットワークが題材として取り上げられている。これらの学習を通して、メディアに携わる人々の努力や工夫、情報ネットワークの仕組みや社会に与える影響などを学んでいく。情報社会との正しい付き合い方は、子どもたちだけでなく、私たち大人も必要とされることである。

そこで単元の導入では、ネット依存や個人情報の漏洩などの情報社会にかかわる問題をいくつか取り上げ、保護者や地域の大人を対象とした意見広告の作成をめあてとして設定した。また、メディアや情報ネットワークの実例については、児童がより身近に感じられるよう、阪神圏の例を主に取り上げるようにした。具体的には、新聞の例では兵庫県での購読者が多い神戸新聞を取り上げた。同様に医療ネットワークに関しても、「h-Anshin（阪神）むこねと*」を扱った。

メディアや情報ネットワークに関する学習を終えたあとに、情報社会との付き合い方について考えたことを紙面広告にして校内に貼り出すことにした。広告の作成にあたっては、教員がプレゼンテーショ

私たちに迫る危機・・・

とても便利な情報ネットワークですが、
その裏側にはたくさんの危険が・・・

一日で使われない日は無い情報ネットワーク、図書館のホームページ、テレビ、店、コンビニなど様々な場所で使われています。ですがどの便利さの裏側にはたくさんの危険があります。個人情報の流出、詐欺、有害サイトなどです。これらは毎日の日々と隣り合わせです。情報ネットワークは一つ間違えると大変なことになります。でも日頃からきちんと対策をすれば大丈夫です。みなさんも日頃から対策を立て安全に使いましょう。

▲画像は児童の作品。背景の画像は削除している。

ンソフトを用いて作成したフォーマット（縦向き・横向き）を配布し、そのフォーマットをもとに、意見広告を構成する「キャッチコピー」「サブコピー」「ボディコピー（本文）」を各自で考え、作品を仕上げていった。

プレゼンテーションソフトを使用した理由は、考えの深まりに応じて加除修正を行うことが可能であることに加えて、字体や文字の大きさ・色を自在に変えられること、イラストや写真などの挿入が容易であり、さらに作品の完成度が高まることで、子どもたちの達成感が得やすいことなどが挙げられる。

また、イラストや写真の使用にあたっては、著作権や肖像権への配慮を指導する機会をもつことができる。情報モラルに対する理解を深めるという点でも、プレゼンテーションソフトを利用することのよさがあったとふりかえっている。

3. おわりに

今回のような発信活動に広げる授業づくりは、他の単元においても適用可能である。過去の実践では、米づくりの大切さを伝えるために下級生を対象としたポスターセッションを実施したりしている。今後も、学習を通して培った社会認識を発信する場を提供していきたいと考えている。

* 2015年から運用を開始した、阪神間7市1町の医療情報ネットワーク。